

2026年度

【一般選抜(手続期間長期型)】
【一般選抜前期A日程／共通テストプラス方式】

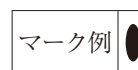
3 限 目

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 不正行為を行った場合は、本学の選抜日程全ての成績を無効とします。
3. 問題冊子は1部、解答用紙は1枚です。
4. 出題科目、ページおよび選択方法は、下表のとおりです。

出題科目	ページ	選択方法
物理基礎・物理	1 ～ 7	解答科目は、選択できる科目を受験票で確認のうえ、選択してください。
化学基礎・化学	9 ～ 16	
生物基礎・生物	17 ～ 25	
公 共	27 ～ 36	
国 語	国語 1 ～ 国語20 (うしろから始まります)	

5. 解答は全てマークセンス方式です。マークは黒鉛筆(シャープペンシル可)で右の例のように正しくマークしてください。



6. 解答用紙には次の記入欄があります。

(1) 受験番号欄

① 手続期間長期型または前期 A 日程のいずれかを受験している場合

解答用紙の受験番号欄に受験票に記載されている受験番号を算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(一般選抜前期(共通テストプラス方式)の受験番号は記入しないこと)

② 手続期間長期型と前期 A 日程を併願受験している場合

解答用紙の受験番号欄に前期 A 日程の受験番号を算用数字で記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

(一般選抜前期(共通テストプラス方式)の受験番号は記入しないこと)

(2) 解答科目選択欄

解答する科目を1つだけ○で囲み、さらにその下のマーク欄にマークしてください。

※ 受験番号および解答した科目が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

7. 記入したマークを訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消し、改めてマークしてください(消しくずを残さないこと)。
8. 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
9. 解答用紙の※印欄はマークしてはいけません。
10. 問題冊子と解答用紙にページの落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所や汚れなどがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
11. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号

(1)

)

(55)

)

I

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(六〇点)

¹二〇一〇年代半ば、子ども向け辞書『Oxford Junior Dictionary』の改訂が作家たちのあいだで話題になった。二〇〇七年以降の改訂で、情報技術(I T)関連語が追加され、代わりに自然環境に関する言葉が削除されたのである。追加された語には、‘attachment’ ‘broadband’ ‘blog’ ‘chatroom’ ‘cut and paste’ 等があり、削除された語には ‘acorn (どんぐり)’ ‘buttercup (金鳳花)’ ‘conker (トチの実)’ ‘dandelion (タンポポ)’ ‘heron (サギ)’ ‘newt (イモリ)’ ‘weasel (イタチ)’ などが並ぶ。何を追加し削除するかという判断は、語の使用頻度を基準としておこなわれる。

A

加は、画面の前で長時間を過ごす子どもの現実を反映しているということだ。この改訂に対し、マーガレット・アトウッドをはじめとする二八人の作家がコウギ^Aした。作家たちは、戸外で過ごす時間の減少と子どもの身体的・精神的問題のI が考慮されていないと指摘し、自然関連語の削除は直ちに生命に危険をもたらすものではないものの、権威ある辞書としての責任をもって文化のあり方を考えるよう要請した。

かつて子どもたちは、Aは ‘acorn’ のA、Bは ‘buttercup’ のB、Cは ‘conker’ のCと口ずさみながら言葉を覚えたが、それがAは ‘attachment’、Bは ‘blog’、Cは ‘chatroom’ に変わりつつある。既にお気づきだろうが、‘attachment’ ‘blog’ ‘chatroom’ などI T関連語は日本語に訳さなくてもわかる。これが意味するのは、I Tのグローバルな普及によってローカルな文化固有の言葉がなくなりつつあるということなのか。

B

I Tによる置換は、青い地球としてイメージされてきた生物圏^{バイオスフィア}から、科学技術や情報システムで覆い尽くされた技術圏^{テクノスフィア}へと、私たちの日常が確実に移行したことを物語っている。

サギやイモリのある環境よりも画面越しの環境のほうがリアルティをもつのは、子どもに限ったことではない。言うまでもないが、画面越しの環境とはスマートフォンやノートPCの画面の向こうを指す。私たちは当たり前のようにスマートフォンやタブレットという言葉を使うけれども、これからみるカズオ・イシグロ(一九五四年―)の小説『クララとお日さま』(二〇二一年)の語り手である人型A Iロボットのクララには、そうした電子機器を認知する能力が備わっていない。クララにとってそれらは長方形のモノであり、大小のちがいかかわらずクララはそれらを一律に「長方形」(英語原文では

oblong、邦訳では「オブロン端末」とよぶ。道ゆく人は手に持った長方形を操作している、思春期のジョージは家で長方形の個人指導を受けている、ジョージの母親はコーヒーを飲みながら長方形に目を落としている、といったクララの語りを追いながら、読み手は長方形をスマートフォンやタブレットに変換して情景を思い浮かべるが、クララの語りには電子機器を指す言葉は一切使われない。電子機器を認識しないクララには、当然画面越しのリアリティというものも存在しないのだ。

科学技術の

II

でありながら科学技術に染め上げられていないクララは、科学技術が浸透した日常を相対化する視点を体現している。そのようなクララを水先案内人として、小説の読者は、技術圏において人間であるとはどういうことなのかという問いに向き合うことになる。

ノーベル文学賞受賞から四年後に出版された『クララとお日さま』で、イシグロは人型A I ロボットを語り手として選んだ。

C

、ロボッ

トという名称は適切ではない。この小説ではロボットという言葉が使われることはほぼなく、クララやローザやレックスという名前が個別につけられ、集合的名称としてはA F (Artificial Friend 人工親友) が用いられる。A Fは、生産された後にA F店に運ばれ、店長の調整によりそれぞれ個性をもつ。来店した子と親に選ばれ購入された後、子どもの幸福のために尽くすのがA Fの使命だ。

『クララとお日さま』は六部構成である。第一部はA F店を舞台とし、クララと他のA Fや店長とのやりとり、来店する客の態度、店の外の街の様子、ジョージとの出会いが語られ、第二部からジョージの家に舞台が移る。ジョージは、「向上処置」とよばれる遺伝子操作の副作用で病弱だ。向上処置は、それを受けないと大学進学が絶たれる一方、ジョージの姉がそうだったように死に至るリスクがあるというもので、科学技術の両義性を正当なものに見せかける科学技術論的発想と、子どもの社会的成功と健康を

あ

秤^{びん}にかける現代社会のあり方を考えさせる設定になっている。向上処置に

何の疑問ももたない人たち、娘の社会的成功と健康のあいだで揺れるジョージの母、母の期待に応えようとするジョージ、ジョージの親友で自力で将来を切り拓^{ひら}こうとするリック、ジョージの命を守ろうとする父や家政婦、ジョージが死んでもその身体的複製にA Fを搭載することで「ジョージを継続」できると考える科学技術のモウシンシャなど、^B何が幸福かをめぐって多様な価値観³が錯綜^{さくそう}し、それがクララを通して語られる。

幸福のとらえ方は

III

とはいえ、経済的成功に価値を置くのが時流⁴である。それを反映して、『クララとお日さま』の舞台は、子に向上処

置を施す親がタイセイ^Cを占める社会に設定されている。ラッセルの『幸福論』によれば、競争に勝って成功することを幸福ととらえる見方はアメリカに端を発する。イシグロが小説の舞台をアメリカのどこにでもある街に設定したのは、向上処置→経済的成功→幸福という考え方が浸透した社会を前景化するためだったのだろう。

D

、カウンターカルチャー⁵が席卷⁵するアメリカを旅した経験のあるイシグロは、主流の価値観を相対化するアメリカ

IV

の文化的モザイクの⁶も熟知していたにちがひなく、その証拠に、向上処置をよしとしないニューエイジ風の父親や移民の家政婦を登場させている。

多様な幸福観のせめぎ合いを、イシグロはクララにどのように語らせているのか。^A人工知能をもつクララは、即座に認識できないものはボックス分割された像として語る一方、どれだけ長く入り組んだ会話も正確に再現することができる。それゆえ、クララの語りは虚構というよりもAIのリアルな記憶として読めてしまうところがある。また、小説を読んでいると作者の影がちらつくところがあるが、『クララとお日さま』ではそう感じる事があまりない。もちろんすべて作家の創作なのだが、ずば抜けた記憶力をもつAIロボットを語り手としたことで、イシグロは、幸福をめぐる多様な見解を多様なまま再現する文学空間を創出した。大きな声も小さな声も、そして声にならない態度やふるまいも正確に再現するクララの語りは、幸福をめぐる多声的空間に読者を導く。そこには、人間だけでなく、人間の何気ない言動に一喜一憂するAFも参与しており、やさしさや親切さを何よりも重視するクララの反応も示されている。クララが正確に再現する他⁶多の声やふるまいは、人間とAFの相互作用の痕跡として読まれるべきものだ。

イシグロがロボットという言葉退けてAFという造語を用いたのは、ロボット観のVを意図してのことだろう。ロボットもAFも人間の役に立つためにつくられるという点では同じだが、人間と主従関係にあるロボットとは異なり、AFは人間の親友になることに存在意義がある。人工親友として人間の役に立つとは、人間の意のままに利用されることではない。⁶イシグロは、AFという存在を通して、人間とロボットの共生——人間とロボットが二項対立的ではなく、相互作用において定義されるあり方——を描こうとしているのである。

ロボットとの共生の探究は、近年のロボット研究の動向と合致する。そこに至る流れをざっと概観しよう。

E

「ロボット」という言葉は

カレル・チャペックが戯曲『ロボット (R・U・R)』(一九二〇年)で用いた造語で、人間よりも安く効率的に労働する人造人間という意味で使われた。チャペックの戯曲で人間に対するロボットの反乱が描かれてから、ロボットによる人間の殲滅^{せんだめつ}というシナリオが流布するが、アイザック・アシモフの小説『われはロボット』(一九五〇年)で潮い^いが変わる。アシモフは、「ロボットは人間に危害を加えてはならない」という第一条をはじめとする「ロボット工学三原則」を考案し、人間とロボットの共存という新たなシナリオを提示した。アシモフのロボット工学三原則はロボット研究の現場に浸透し、人間に危害を加えず人間とともに社会をつくるロボットの製作が進んだ。

二一世紀に入り、人型ロボットの開発が勢いづいている。人型ロボットにもいろいろあり、人間のように頭や手足のあるロボットは「ヒューマノイド」とよばれ、ホンダのアシモ、映画『WALL・E』(二〇〇八年)のウォーリーがこれにあたる。人間酷似型ロボットは「アンドロイド」とよばれる(女性の場合はガイノイドとよばれることもある)。映画『ブレードランナー』に登場するレプリカントがそうだし、ショートヘアで浅黒くフランス人みたくと形容されるクララもアンドロイドだ。

便利な生活のためにロボットが作られるのであれば、お掃除ロボットのルンバのようなものでよいわけで、わざわざ人に似せる必要はなさそうだが、ロボット工学者の石黒浩によれば、人間酷似型ロボットの開発には、人間の役に立たせるといふ工学的目的と、人間の意識や心について調べるという科学的

目的があるという。後者に関して石黒はこう説明している。人間とよく似たロボットに人が関わるとき、「その関わり方が人間らしかったとすると、そのロボットには人間らしさの何かが再現されていることになる。すなわち、その人間らしさの秘密はロボットにジッソウ^Dされており、ロボットを分解して中身を見ることによって、人間らしさの秘密を知ることができる」。

石黒のいう人とロボットとの関係は、ロボットを分解の対象と見ている点で人間と機械の二項対立構図を踏襲しているが、そうではないロボット観もある。マサチューセッツ工科大学コンピュータ科学人工知能研究所（CSAIL）でフィールド調査をおこなった人類学者キャスリーン・リチャードソンによれば、人型ロボットと人間の相互関係を通して社会のあり方を探究するCSAILのロボット工学者のあいだでは、人型ロボットが人間の仲間とみなされている。CSAILでは人間にとつての脅威というロボット観を払拭するために意図的に子どもの人型ロボットを作り、人間とロボットの関わりを親密性や情愛という点から研究しているそうだ。

こうしたロボット研究における人型ロボットの転回⁸は、ハラウェイの「伴^{コンパニオン}侶種^{スピーシーズ}」という考え方——異種が伴侶としてともに生成していくということ

——が人型AIロボット製作の現場に根を下ろしつつあるという思いを抱かせる。ロボットの文化表象では、人間と人型ロボットのVI 関係を示唆する動きが既にある。たとえば『WALL・E』ではロボット同士であるウォーリーとイヴの共闘が人間を目覚めさせ地球の新たな一章をひらき、イアン・マキューアンの小説『恋するアダム』（二〇一九年）では人間の生活に深く関わるアンドロイドがアダムとイヴと名づけられていることに、ロボットと人間がともに生きる新たな創世のヴィジョンが見てとれる。

『クララとお日さま』でイシグロは、クララを、その名前の語源であるラテン語の *clarus*（明るい、輝く）が意味する通り、人間の感情や心のキビを照らす特別な観察力を有するアンドロイドとして登場させ、そのクララの目線から人間と人工親友^Aの関係を描いた。ジョジーの幸福のために尽くすクララの行動は、あらかじめプログラムされたものではなく、状況に応じた判断による。クララの行動は周りの人間に影響を及ぼし、クララもまたかれらのふるまいに影響される。クララと周りの人間は、ロボットと人間という二項対立的存在ではなく、ハラウェイのいう伴侶種、あるいはラトウールのいうアクター——「行為の源ではなく、無数の事物が群がってくる動的な標的」——である。アクター間の相互定義において人間とロボットが入り混じる異種混合を描くことで、イシグロは、人間と機械の二項対立を脱臼させ、両者が絡まりあう人間以上の世界を想像する余白を創出した。エイブラム『感応の呪文』で「人間以上」という造語が使われて以降、人間と人間ならざるものが相互に関わりあう人間以上の世界は生物圏の文脈で論じられてきたが、『クララとお日さま』は、技術圏を人間以上という視座からとらえる道を拓いた。

（結城正美『文学は地球を想像する——エコクリティシズムの挑戦』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① 青春をギセイにする

(1)

② ワギが成立する

③ ナンギな仕事だ

④ カイギ論者

⑤ ギフンに駆られる

B ① キョエイシンをくすぐる

(2)

② 学問のシンズイに触れる

③ シンリョエンボウ

④ 国民にシンを問う

⑤ オンコチシン

C ① 総裁としてスイタイする

(3)

② タイバイ交渉

③ ドウタイ視力

④ アクタイを吐く

⑤ タイキョクカンを持つ

D ① ゴソウ船団方式

(4)

② 準備タイソウ

③ クウソウ科学小説

④ ソウギョウシャ一族

⑤ ダンソウの麗人

E ① 知勇ケンビ

(5)

② 有終のビ

③ ビに入り細をうがつ

④ 犯人をビコウする

⑤ シュウビを開く

問二 傍線部1「二〇一〇年代半ば、子ども向け辞書『Oxford Junior Dictionary』の改訂が作家たちのあいだで話題になった」とあるが、筆者はその改訂が何を意味していると述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(6)

① 子どもだけでなく、大人も、サギやイモリのいる環境よりも、スマートフォンやノートPCの画面越しの環境のほうに強いリアリティを感じるような時代になってしまったということ。

② I-Tのグローバルな普及は、自然環境の破壊のように直ちに生命に危険をもたらすものではないが、自然関連語の削除は、子どもの学びを支える語彙を削ぎ落^そとしかねないということ。

③ 私たちの普段の生活が、青い地球としてイメージされてきた生物圏から、科学技術や情報システムで覆い尽くされた技術圏へと、間違いなく移り変わってしまったということ。

④ I-T関連語を追加し、代わりに自然環境に関する言葉を削除するという判断が、単に、語の使用頻度を基準としておこなわれ、文化のあり方がまったく考慮されていないということ。

⑤ I-T関連語の追加は、子どもたちと身近な自然との接点を失わせ、辞書を通じて自然を知る入り口を狭めてしまうといった、文化のあり方に直結する大きな問題をはらんでいるということ。

問三

空欄

A

く

E

に入れるのに最も適当なことばを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄 A

① さもないと

② 要するに

③ 一方

④ そればかりか

⑤ しかし

空欄 B

① いずれにせよ

② というのも

③ とりわけ

④ むしろ

⑤ それなのに

空欄 C

① やはり

② だとすれば

③ さらに

④ なぜなら

⑤ いや

空欄 D

① と同時に

② でないと

③ それにしては

④ つまり

⑤ むしろ

空欄 E

① たとえば

② 結局

③ いわば

④ まず

⑤ ともあれ

(11)

(10)

(9)

(8)

(7)

問四 空欄 Ⅰ Ⅵ に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ ① 相関性 ② 合理性 ③ 整合性 ④ 一貫性 ⑤ 可能性 (12)

空欄Ⅱ ① 秘蔵っ子 ② 合いの子 ③ 虎の子 ④ 申し子 ⑤ 黒子 (13)

空欄Ⅲ ① 五分五分 ② 唯一無二 ③ 千差万別 ④ 十年一日 ⑤ 四方八方 (14)

空欄Ⅳ ① 瞬発力 ② 圧力 ③ 権力 ④ 活力 ⑤ 復元力 (15)

空欄Ⅴ ① 収束 ② 普及 ③ 増補 ④ 刷新 ⑤ 調整 (16)

空欄Ⅵ ① 類縁 ② 依存 ③ 利害 ④ 力 ⑤ 背後 (17)

問五 傍線部2「一律に」、傍線部4「時流」、傍線部5「席卷する」、傍線部7「踏襲している」、傍線部8「根を下ろし」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部2 ① 正しく ② 手短に ③ いつでも ④ まとめて ⑤ 同じように (18)

傍線部4 ① 運命 ② 慣習 ③ 風潮 ④ 弊害 ⑤ 急務 (19)

傍線部5 ① 新しく生まれた ② 名誉を回復した ③ 深く信仰されている ④ 圧倒的に広まっている ⑤ 受け継いでいる (20)

傍線部7 ① 誤魔化している ② 凌いでいる ③ 取り入れている ④ 出現し ⑤ 拡大し (21)

傍線部8 ① 定着し ② 埋没し ③ 散見し ④ 出現し ⑤ 拡大し (22)

問六 空欄 あ 、 い に入る漢字と同じ漢字が に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

空欄あ ① 衣無縫 ② 韋駄 ③ 鬼簿に名が載る (23)

④ 合 承知の助 ⑤ 万物流 ⑥ 責任 嫁 (24)

⑦ 予先を じる ⑧ 滴石をうがつ ⑨ 五十にして 命を知る (25)

空欄い ① 衣食 りて礼節を知る ② 一 瞭然 ③ 橋 堡を築く (26) (27) (28)

④ 円満具 ⑤ お 付役 ⑥ 素人 にも不出来だ

⑦ 並みを揃える ⑧ 船 多くして船山に上る ⑨ ごなしに叱りつける

問七 傍線部3「何が幸福かをめぐって多様な価値観が錯綜し、それがクララを通して語られる」とあるが、筆者は、イシグロがそれをクララに語らせた

意義をどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(29)

① それぞれ個性をもち、子どもの幸福のために尽くすクララが語り手となることで、競争に勝って成功することだけが幸福であるというアメリカ的な価値観から、小説の読者を脱却させる。

② どれだけ長く入り組んだ会話も正確に再現することができるクララが語り手となることで、幸福をめぐる多様な見解を多様なまま再現する文学空間を生み出し、小説の読者をそこへ誘う。

③ 電子機器を指す言葉を一切使わないクララが語り手となることで、画面越しのリアリティというものが絶対的なものではないという現実、小説の読者を導く。

④ 虚構というよりもAIのリアルな記憶として出来事を語るクララが語り手となることで、人間とAIの相互作用によってこそ幸福は実現するのだと、小説の読者に確信させる。

⑤ 科学技術が浸透した日常を相対化する視点を体现しているクララが語り手となることで、技術圏において人間であるとはどういうことなのかという問いに、小説の読者を向き合わせる。

問八 傍線部6「イシグロは、AFという存在を通して、……を描こうとしているのである」とあるが、筆者は、そのような共生が描かれた作品の意義をどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(30)

① 人間と機械の二項対立を脱臼させ、両者が絡まりあう人間以上の世界、つまり、人間と人間ならざるものが相互に関わりあう人間以上の世界を読者が想像する道を開く。

② 人型ロボットと人間の相互関係を通して社会のあり方を探究し、人間とロボットの関わりを親密性や情愛という点から研究して、人間にとっての脅威というロボット観を払拭する。

③ ロボット研究における人型ロボットの転回によって、人間を目覚めさせ地球の新たな一章をひらいたり、新たな創世のヴィジョンを示したりすることが可能になったことを広く喧伝^{けんでん}する。

④ 人間とよく似たロボットが人と関わるときに、人間らしい関わり方ができた、そのロボットに再現された人間らしさの秘密を、ロボットを分解して中身を見ることが確かめる。

⑤ ロボットもAFも人間の役に立つためにつくられるという点では同じだが、人間と主従関係にあるロボットとは異なり、AFは人間の親友になることに存在意義があることを強調する。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四〇点)

日本の伝統的な発酵食品を後世に残す豪華な限定本を作ってほしいという依頼を受けた舟木聖司は、料理研究家の丸山の協力で日本各地の職人を訪ねている。十二月の初旬に、丸山や写真家の桐原らと和歌山県新宮市での取材を終えた聖司たちは、翌日、車を借りて熊野川を目指す。次の文章は、その途中、一行が、トイレ休憩で浮島の森(国指定天然記念物)に立ち寄った場面である。なお、美奈子は丸山の連れ、寺沢恭二は、桐原の助手である。

「二人たったの百円や。トイレを使わせてもらって、I 行ってしまうなんて、1 当節の礼儀知らずな輩やからみたいなことはでけへん。これも何かの

あ やで。浮島の森を見学していこか」

そう丸山は言って、事務所に入った。聖司たちも丸山のあとにつづいた。

小さな事務所では、数人の老人たちが雑談に興じていた。石油ストーブの上に載っているヤカンから湯気が出ている。

七十歳を超えていそうな、近所のおじいさんとおばあさんが、2 暇を持て余して浮島の森の事務所に遊びに来ているといった感じだったが、聖司たちが入ってくると、そのうちのひとりが浮島の森の案内パンフレットを配ってくれた。

丸山は百円玉を五つ、受付のテーブルに置いた。

「五人ですか。いま専門の案内係が所用で席を外しております、充分な案内はでけんのですが、私のご案内させていただきます。II そ れが専門ではありませんので、あまり詳しいご説明はできませんが……」

青いセーターを着た小柄で痩身の老人がそう言った。

「いやいや、詳しい説明をしていただいても、私たちにはよく理解できません。わざわざご案内下さらなくても、私たちだけでぐるっと見て廻まわりますので」

丸山がそう言ったときには、老人はすでに入口とは反対側のドアを出て歩きだしていた。

仕方なく、聖司たち五人は老人のあとをついていった。

沼があつて、そこに島が浮かんでいるらしいのだが、聖司には島には見えなかった。さまざまな種類の樹木が鬱蒼うっそうと茂った、こぢんまりとした森にすぎなかった。

けれどもその小さな森の周囲はすべて沼の水に囲まれていた。

「Ⅲ 浮島と申しますのは……」

老人はまず浮島とは何かについて説明を始めた。

「この浮島の誕生は縄文時代^Aにサカノボリ^Aます」

約六千年前、海は陸側に侵入していた。現在の新宮市内は島として浮かぶ内湾になっていた。

縄文時代の終わりころになると、地形や気象の変化によって、新宮市内全体は広い沼の沢地になった。

その沼沢^{しやうたく}地内で植物の遺体が幾つも集まって形成されたのが「浮島」である。「浮島」が沼に浮くのは、植物の遺体の分解が遅れて出来た泥炭マット状の浮遊体だからなのだ。

老人は、そう説明してから、少し

い

を進めながら、

「私は専門的なことはわからないので、植物の遺体の泥炭マット状の浮遊体がどういうものなのか、ちゃんと教えてあげることがでけんです」と申し訳なさそうに言った。

「専門の案内係がいま所用で……」

「あつ、それはさっきうかがいました。いまのご説明で、浮島というものがよくわかりました」

丸山はそう言った。事務所の裏のドアを出てからまだ十歩も歩いていなかった。

浮島の森が一周どのくらいの距離なのかわからなかったので、聖司は案内パンフレットを読んだ。浮島はほぼ方形の小島で長さ八五メートル、幅六〇メートル、総面積およそ四九六一平方メートルと書かれてあった。

聖司は頭のなかで図を描き、その周りを普通の速度で歩くと何分くらいかかるだろうかと考えた。

十五分もあれば充分であろう。まあ、十五分なら、この老人の説明につき合ってもいい……。³ 聖司は少しほっとしながら、そう考えた。

「あそこをご覧下さい。あそこに苔^{こけ}が生えとります。いやいや、おねえさん、そこではありません。どこを見とるんですか。あそこです」

老人は美奈子に言った。

「はい、すみません。どこですか？」

美奈子は慌てて老人の指差す方向に視線を注いだ。苔が生えているイツカク^Bがあったが、何本かの太い樹^きのあいだだったので、聖司にもそれが苔であるとは気づかなかった。

「あの苔は、ヒョウコウ^C千メートル以上のところでないとい生育できない苔でありまして、そんな苔がどうして、この新宮市内の浮島で障りなく生育してお

るのか、植物学的にも地質学的にも誠に不思議なことなのです。わかりましたか？」

「はい、わかりました。不思議なことなんですネ？」

美奈子の言葉に老人は頷き返し、

「そうです。不思議なことなのです。不思議と申しますと、あの赤い実をつけた木ですが……」

老人は三、四歩行つて、一本の木を指差した。

「あつ、そこのおにいちちゃん、IV 歩かんように。一歩踏み外して沼に落ちますと、一巻の終わりですので」

「そう言われて、寺沢恭二は沼からあとずさりした。

「一巻の終わり、ですか？」

「そうです。ここは底なし沼です。ドボンと落ちたら最後です。みなさんも足元に気をつけて。さあこれから浮島の森のご案内を始めることにいたしますよう」

「えっ？ これから始まるんですか？」

と聖司は思わず言ってしまった。

「はい、これからです。充分なご説明ができないのは誠に申し訳ないのですが。

II 私はそっちのほうの専門ではありませんので」

老人は赤い実のついた木を説明してから、歩道と森とのあいだの沼に渡してある枝の橋を渡った。

「落ちないように。底なし沼ですので」

一本の木の説明が終わると、次にその近くの別の品種の木の説明に移り、そして次にはその隣のタケ高い草^Dについて語り……。

聖司が来た道を振り返ると、浮島のなかに場所を移してからまだ五メートルほどしか進んでいなかった。

専門ではないと言いながらも、老人は浮島の森に生息している植物や野鳥に関して驚くほどの知識を持っていた。そして、どうしてこの木がここにあるのかを説明しておかなければならないという場合には、聖司たちをつれて元来た道を引き返し、別の木と比較させた。

「足元に気をつけてね」

木で組んだ渡しのところさしかかるたびに老人は言った。

「底なし沼ですもんね」

美奈子もそのたびにそう言い返したが、それは揶揄^{やゆ}の口調ではなく、老人に対する一種の尊敬に似たものによって発せられていた。

「これはマンリヨウという木です。植物学的には、合弁花類ヤブコウジ科。あそこにあるタイミンタチバナと同じ種類に属しております。あのシダはヒメシダ科のテツホシダです」

空には雲が多くなっていて、風に冷たさが加わってきた。

「みなさん、寒くはありませんか？」

と老人は訊いた。

「いえいえ、私たちは大丈夫です。おじいさんこそ、寒くはありませんか？」

丸山はそう訊きながら、ジャケットの内ポケットから小さな袋を出した。それはどんな季節であつても丸山が常に持ち歩いているドイツ製の薄いアノラックで、ひろげるとかなり大柄な男の上半身を覆えるが、折り畳むと掌の大きさになつてしまふ丈夫で便利なシロモノ^Eだった。

「よかつたら、これをお召しになつて下さい。まだ浮島の森は終わりそうにないですからねエ」

丸山は笑いながら言つて、アノラックをひろげた。

「私は大丈夫です。寒さにも、雨風にも慣れておりまして」

老人はそう言つて樹林のなかを五、六歩進み、

「これはウルシです。ウルシ科のハゼノキ」

と指差した。

桐原は、木を撮影するふりをしながら、小型のカメラで老人を撮っていた。

「あの鳥は何ていう鳥ですか？」

美奈子がヤマモモの木の枝に飛んできた小鳥を指差して老人に訊いた。

老人は顔をあげ、しばらく考えていたが、

「何でしょうなア……。ここでは滅多に見えなすなア」

と言つた。

「おじいさんでも知らない鳥なんですねエ。よつぽど珍しい鳥なんやねエ」

老人は、ああ、わかつたという顔で美奈子を見つめ、

「下から腹だけ見たんで、すぐにはわからなかった……。あれは雀^{すずめ}です。どこにでもおる雀です」

と照れ臭そうに言った。⁴

聖司たちが笑うと、

「雀は田圃^{たんぼ}がいちばんよう似合いますなア」

と老人はつぶやき、これはモチノキ科のイヌウメモドキ、こっちはホルトノキ科のコバンモチと説明しながら歩道を曲がった。

浮島の森をほぼ一周したのだとわかったが、聖司は老人が

浮島の森に生息する植物をほぼすべて丁寧に説明してくれたのであろうが、老人の知識では正確に説明しきれないものもあったようで、それが老人には

Ⅵ
なのだということが表情や口調で伝わってきた。

事務所の手前で

い

を止めて、

「ここで大学の研究グループの学生さんが底なし沼に沈みまして……」

と老人は言った。

「土の上やから大丈夫やと思うたんでしよなア。そしたら、ずぶずぶと首のところで沈んでしよ……。みんなで手をつかんだり、服の襟をつかんだりして、なんとか助け出したんですが、泥のなかにはメタンガスが溜^たまったりしますから、全身が臭うて臭うて……。真っ裸にさせて、ホースの水で全身を洗うてからでないと風呂に入れるわけにはいかんです。風呂場がメタンガスの匂いで充満しよりますから。冬やったから、学生さんの唇がそのうち真っ青になつてきまして。気の毒でしたが、周りに仲間がおったからよかつたようなもの、誰もおらんかつたら、そのまま沈んでいつてしもうて、一巻の終わりです。どこに沈んだのかもわからんまになつたことでしょう」

聖司たちが事務所に戻ると、別の老人が熱い茶を紙コップに注いでくれた。

「すばらしいものを見学させていただきました。ご丁寧な説明がなければ、この浮島の森というものがどういふものなのか、私どもにはよくわからないままだったでしょう。ありがとうございます」

丸山澄男は、熱い茶をうまそうに飲みながら礼を述べた。

⁵ 聖司たちも老人たちに礼を言つて事務所から出ると、停めてある車に戻つた。

「一人、百円やで」

と桐原が誰に言うともなく

Ⅶ

。

「たったの百円やで。俺ら五人で五百円や。あのおじいさん、もし見学者がたったのひとりでも、手を抜かんやろなア」

「仕事とは、かくあるべきやな」

と丸山も言つて、小さな事務所に向かつてお辞儀をした。

「もうこんなまどろっこしい説明、早よう終わつてエ……なんて思つた自分が恥かしいなつたわ」

と美奈子は言い、

「ぼくは、だんだん肅然となつていく自分を感じました」

そう寺沢恭二は言つた。

聖司は、桐原の思いも、丸山の言葉も、美奈子と寺沢の感想も、どれも自分の心に湧き起こつたものと同じだったので、何も言わず無言で運転席に坐つた。だが、新宮市内から北へ熊野川へと車を走らせているうちに、名も知らぬ老人への尊敬の思いは強くなつていった。

仕事をするかぎりは、いっさい手抜きをせず、仕事とはかくあるべきだというものを為さなければならぬ。

それは報酬とは無関係なのだ。いかに少ない報酬であろうとも、それが自分の仕事であるかぎり、決して手は抜いてはならない。仕事とはそうであらねばならない……。

聖司は、京都に帰つたら、この発酵食品の本に関して、あらためてその「造り」の根本を練り直そうと決めた。

自分がいま進めている仕事は、どこかで何か大事なものが抜けている。それが何かを、もう一度深く考え直さなければならない。行き詰まつたら原点に戻れ、というのは、あらゆることの鉄則だ。

何のために「日本の伝統的発酵食品」に関する詳細な専門書を作るのか……。

発酵食品についての書物は、日本中の書店にも図書館にも、大学の研究室にもたくさんある。だが装幀も含めて、本の造りも、内容も、最高のものを作ろうという松葉伊志郎の思いを、自分は松葉が望む以上のレベルにまで高めてみせなくてはならない。

発酵食品は、人間にどのような恩恵と幸福をもたらすのか……。まずそこから考え直すべきであろう。

聖司はそう考えた。

（宮本輝『にぎやかな天地』より。ただし出題の都合上、表現を一部改めた箇所がある）

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字で書いたときに、その漢字と同じ漢字をふくむものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

A ① 給与がソキユウして支払われる

(31)

② センゾの霊を供養する

③ 糖尿病のソイン

④ 社長にジキソする

⑤ 古い友とソエンになる

B ① 駅前をクカク整理する

(32)

② ウイルスのカクサン

③ 話のカクシンに触れる

④ テンシユカク

⑤ 蝸牛^{かぎゅう}カクジヨウの争い

C ① フドウヒヨウの獲得

(33)

② クジラのヒヨウチャク

③ シヨウヒヨウ登録

④ ヒヨウケイ訪問

⑤ トツピヨウシもない

D ① エンジヨウ商法

(34)

② 政界をジヨウカ

③ キジヨウに振る舞う

④ ご無事で何よりチヨウジヨウ

⑤ ジヨウジヨウ企業

E ① タイゼンジジャク

(35)

② シンダイ列車

③ ロウタイに鞭^{むち}打つ

④ レキダイの首相

⑤ カイダイ無双

問二

空欄

I

VII

に入れるのに最も適当なことを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

空欄Ⅰ

① 当てつけがましく

② 金づくで

③ しらんふりして

④ 言わず語らず

⑤ おくびにも出さず

空欄Ⅱ

① 確か

② むしろ

③ なにぶん

④ 誓って

⑤ 事もあろうに

空欄Ⅲ

① 結局

② そういえば

③ というのも

④ そういうわけで

⑤ そもそも

空欄Ⅳ

① ふらふらと

② のこのこと

③ よたよたと

④ のそのそと

⑤ そろそろと

空欄Ⅴ

① 目にした

② 気にした

③ 耳にした

④ 手にした

⑤ 口にした

空欄Ⅵ

① 不謹慎

② 不可解

③ 不吉

④ 不毛

⑤ 不満

空欄Ⅶ

① つぶやいた

② なじった

③ 叫んだ

④ 言い訳した

⑤ くだを巻いた

問三

傍線部1「当節の」、傍線部2「暇を持て余して」、傍線部4「照れ臭そうに」、傍線部6「まどろっこしい」の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。

傍線部1

① 少し前の

② ここら辺りの

③ かつての

④ この頃の

⑤ いつぞやの

傍線部2

① することがないまま

② 暢気のんきに構えて

③ 居たたまれなくなつて

(43)

傍線部4

① 得意気に

② 訳も分からぬまま

③ 飾り気なく

④ 几帳面きちょうめんに

⑤ 恥ずかしそうに

(44)

傍線部6

① 貧弱で見苦しい

② いら立つほど遅い

③ 繰り返しが多くて退屈な

(45)

傍線部6

④ 古くてありきたりの

⑤ 気の毒で見えていられない

(46)

問四

空欄

あ

い

に入る漢字と同じ漢字が

に入るものを、次の各群の①～⑨の中からそれぞれ三つ選びなさい。

空欄あ

① を天に任せる

②

起直しに一杯飲もう

③ 親類

者

(47)

(48)

(49)

空欄あ

④ 煮え切らない態度に

を煮やす

⑤

気は根気

⑥ 達成は至難の

だ

(47)

(48)

(49)

空欄あ

⑦ もゆかりもない

⑧ 武

長久

⑨ 自

自得

(47)

(48)

(49)

空欄い ① 詰め談判 ② 公定 合 ③ 将軍のお 元 (50) (51) (52)

④ 対岸の火 ⑤ は 這えば立て立てば めの親心 ⑥ 悪 千里を走る

⑦ 江戸川乱 ⑧ 来年の を言えば鬼が笑う ⑨ 七重の を八重に折る

問五 傍線部3「聖司は少しほっとしながら、そう考えた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(53)

① 浮島の森を見学していこうというのは、トイレを使わしてもらったお礼として丸山が発案したものであり、この老人の、ともすれば詳しくすぎる説明にじっくり時間をかけてまで付き合う必要を感じていなかったから。

② 老人が浮島の誕生を説明しながら、時折差し挟む「案内係が所用で」「専門ではない」という言葉が耳障りで、確かな知識もないのに案内を買って出る彼の無神経さに苛立ちを感じ、できるだけ早く説明が終わってほしいと考えたから。

③ 浮島の森は、あくまでトイレを借りたお礼として、簡単に見て回るだけのつもりであったのに、自分たちの意向を確認しないまま、時間をかけて説明しようとする、この老人の身勝手さが、どうにも我慢ならなかったから。

④ 浮島の森の説明にしては、話があつちに行ったりこっちに行ったりと要領を得ず、発酵食品の本をまとめようとしている自分にとって、時間だけが過ぎていく状況がどうにも無駄なものに思えたから。

⑤ この老人の、浮島の森に関する説明は、思っていた以上に詳しく全員が閉口していたが、我慢して聞いているうちに意外に興味をそそられる内容もあり、少しぐらいなら聞いてみたいと思いはじめたから。

問六 傍線部5「聖司たちも老人たちに礼を言って事務所から出ると、停めてある車に戻った」とあるが、聖司以外の四人はそれぞれ、浮島の森を説明してくれた老人とどのように関わっていたか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(54)

① 美奈子は、木で組んだ渡しのところを通りかかるたびに足元を気をつけるように言葉を掛ける老人に、軽口を叩いて応じていたが、それは彼女に花を持たせようとする彼女なりの配慮であった。

② 当初、丸山は、詳しく説明してくれるという老人の申し出を体よくかわそうとしていたが、事務所に戻ってから彼に伝えた感謝の言葉は、丸山の心からのものであった。

③ 桐原も、浮島の森の見学には乗り気ではなかったが、そこに生息している植物や野鳥に関して博学な老人の説明に引き込まれ、彼の説明するものをすべて記録しておこうと熱心に撮影を繰り返すようになった。

④ 沼の近くを歩いていた寺沢は、不意に老人から、一歩踏み外して沼に落ちると手遅れになると、半ば脅されるように注意されたが、そのことがきっかけで彼の説明に耳を傾けるようになった。

⑤ 携行していた防寒着の提供を老人に申し出た丸山は、その時に「まだ浮島の森は終わりそうにないですからねエ」と心にもないことを言ってしまった自分を、後で恥じることしきりであった。

問七

傍線部7「新宮市内から北へ熊野川へと車を走らせているうちに、名も知らぬ老人への尊敬の思いは強くなっていった」とあるが、この老人への思いから聖司は仕事に対してどのような考えを抱くようになったか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(55)

① 老人の仕事ぶりを目の当たりにして、自分の仕事に欠けていたものに気づき、これからは原点に立ち戻り、いかに少ない報酬であろうとも、仕事とはかくあるべきだというものを見せつけるような仕事をせねばならないと考えるようになった。

② 老人の真摯な働き方に感心はしたが、それは自分には真似^{まね}できることなく、結局は、依頼主の要望に応えるために作業を進めるしかあるまじと、自暴自棄になりそうな自分を奮い立たせねばならないと考えるようになった。

③ 老人の実直な姿に強く刺激され、世間の人から高い評価を得るには本を他に類のないほど華麗に仕立てることも必要で、読者を圧倒するために骨惜しみせず、今後の取材にいつそう気合いを入れて臨もうと考えるようになった。

④ 老人の、報酬に左右されない誠実な仕事ぶりに触れ、自分の仕事に欠けていたものに気づき、発酵食品が人間にもたらす恩恵や幸福とは何かといった原点へと立ち戻って、依頼者の松葉が望む以上の仕事をしようと思えるようになった。

⑤ 老人の仕事ぶりに対する丸山たちの言葉や感想に深く共感しながらも、最終的には自分自身の責任で、自分なりの感覚を唯一のよりどころにし、他者の意見には左右されずに一人で本を仕上げるべきだと考えるようになった。

ご注意

1. 本書の一部あるいは全部について，発行者の許可を得ずに，無断で複写・転写することは禁じられています。
2. 本書の内容に誤り・誤字脱字などございましたら，ご連絡いただけると幸いです。

2026/6/1

発行・制作:広島国際大学入試センター

連絡先:739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36

TEL: 0823-70-4500 FAX: 0823-70-4518

Mail: HIU.Nyushi@josho.ac.jp

URL: <https://www.hirokoku-u.ac.jp/>

Copyright © 2026 Hiroshima International University, All rights reserved.
